

人権だより No.2

2019. 9. 6
人権教育推進委員会

人権講演会「光る鼓動～自分の可能性を信じて～」

7月17日(水)和太鼓奏者の片岡亮太さんを招き、人権講演会と和太鼓ワークショップが行われました。片岡さんは普段、静岡県三島市に住んでいて、全国各地で演奏や講演をしています。

今回は講演やワークショップの様子などをお伝えしたいと思います。



講演会でお話された内容について紹介します。

「普段の生活での困ること、配慮して欲しいこと」

普段生活している中で困ることは、最近、街のトイレがハイテクになってたくさんのボタンがあるということでした。間違えて非常用のボタンを押してビックリしてしまったこともあり、その時、もしここに点字があったらと思ったそうです。旅行に行ったときも博物館やお寺などの展示でたくさん興味深いものがあるのに触ってはいけないものが多い。けれど、見えないので触らなければ分からない。もし、そこにレプリカがあれば触ることができるので、作品の魅力についても知ることができます。レプリカの展示や分かりやすい場所に点字をつけるなど、見えない人も生活していると思って、配慮していただけるともっと暮らしやすい世の中になるのではないかとお話しいただきました。

「点字や和太鼓との出会い」

現在は、講演会や演奏で全国各地や世界各国を回って、積極的に活動されていますが、昔は全く積極的ではなかったそうです。小学5年生で盲学校に転校し、そこで点字に出会いました。それまでは弱視で字を読むのにかなり時間がかかっていたけれど、字をスムーズに読めるようになりました。また、盲学校の授業で和太鼓の演奏にも出会いました。初めて和太鼓をたたいたときの記憶は今でも鮮明に覚えていて、「これだ！」と思ったそうです。そこから、音楽がますます好きになり、同時に様々なことへの自信もついていったそうです。

「未来につながるたくさんの経験」

全盲になってしまったこともそうですが、外国に行って言葉が分からない、自分の持っている音楽の力が通用しないなど生きていく中でつらい、苦しい経験をたくさんしたそうです。しかし、生き続けることで、その経験は数年後に必ず生きてくる、そういったことも分かったそうです。いろいろな人との出会いやたくさんの経験をすることで、今までの自分とは違う自分に出会うことができたそうです。

和太鼓ワークショップ

後半は、高茶屋小学校のみなさんと一緒に和太鼓の演奏をしました。和太鼓のたたき方や様々なリズムについても教えていただきましたので、そちらの様子もお届けしたいと思います。



和太鼓をたたく姿勢は、片岡さんにポーズをとってもらって、体を触らせてもらいました。腕や足の位置などの姿勢も実際に触らせていただくことで、子どもたちも分かりやすく理解することができました。

片岡さんが円の中心となり、たたき方などの見本を見せていただき、みんなで演奏しました。何度も練習することで、徐々にリズムが合ってきて、一体感のある演奏ができるようになってきました。



ワークショップの後半は高等部と理療科の生徒が和太鼓の演奏をしました。みなさん練習に熱心に取り組み、素敵な和太鼓の音色が響き渡っていました。

この人権講演会・和太鼓ワークショップは百周年記念行事及び文化庁主催の芸術家派遣事業として行われました。